

後援団体からの受賞作品

日本子どもの本学会 会長賞

「なめとこ山のくま」を読んで

千葉県市川市立中山小学校

五年 小松 泰斗

「なめとこ山のくまのことならおもしろい。」と、始まるこの話を読んで、この「おもしろい」という言葉の本当の意味はなんだろうと思った。なぜなら、「おもしろい」とひと言で言ってしまうような話ではなかったからだ。

小十郎も若い時はくまの胆と皮をとることだけを考えていたかもしれない。しかし、息子やその妻もなくて、年とった母や孫たちと一緒に生きていくために、どうしてもくまを殺さなければならぬ小十郎は、殺されるくまの気持ちを理解することができるようになった。だから、「おまえをにくくて殺したのでねえんだぞ。……このつきにはくまなんぞに生まれなよ。」と言わずにはいられなかった。そして、こんな気持ちでうち殺したくまの胆と皮を小十郎は、町の荒物屋にべこべことみじめに頭を下げて、買ってもらったのだ。

でも、深い山の奥にいる小十郎は、町にいる小十郎とちがって、くまと同じ様に尊い後光の射すような存在なのだ。そして、小十郎もくまも、荒物屋の主人などにはわからない一つ一つの命の大切さを知っているのだ。

作者は、こんな「なめとこ山のくまのこと」を、かわいそうだから、悲しいとか簡単に言ってしまうくなかったのだろう。「おもしろい」という言葉の中には、もつともつといういろいろな意味がふくまれているような気がする。

(抜粋)

▶自分の生活体験にあてはめないで、本を読んで感じたことだけで書かれています。「おもしろい」という言葉に目をつけて書きすすめているのはたいへんよいのですが、もう少し目を広げて五枚書くと、さらに深まったと思います。

社団法人日本児童文芸家協会 会長賞

「黒いうさぎ」

東京都江戸川区立東小岩小学校

五年 小松 香保吏

「黒うさぎ、お元気ですか？」

そんな見出しを新聞で見ました。不思議に思っただけでみると、次のようなことが書いてありました。

それは、奄美大島の話です。奄美大島は、動物や植物が伸び伸びと育っている美しい南の島です。ところがこのごろ、開発ということで、ブルドーザーがどんどん入り、美しい自然が次々とこわされています。

こうして、生活の場を失った小さな生き物たちは、次第に数が減り、絶滅に追いこまれてしまうかも知れないのです。その中には、「奄美黒うさぎ」もいます。新聞で「奄美黒うさぎ」の記事を読み、心を痛めていたある初夏の日の朝早く、さわやかな緑の風を切って動物小屋に足を運んだ私の目に、見えないウサギのすがたがとびこんで来ました。

それは黒ウサギでした。

(まさか、あなた奄美育ち？では?)

そんなことはないと思いますが、目の前のクロウサギを見ると、どうしてもあの記事のことを考えてしまう私、思わずだきしめて、ウサギにはおずりしてしまいました。

黒いうさぎの住むという潮さの南の島奄美。クロロはそこから、何かをうけたえに学校へやって来たように思えてならないのです。人間のエゴに押しつぶされるかも知れない小さな生き物たちの悲鳴が聞こえてくるような気がしてならないのです。

(抜粋)

▶環境破壊によって住み場所を失いつつある奄美大島の黒うさぎと、不意に学校に迷いこんできた黒いうさぎを重ね合わせて、環境問題に鋭く切り込んだ論理的な作品です。他の作品と比較しても、とてもユニークで、構成もバランスよくまとまっています。

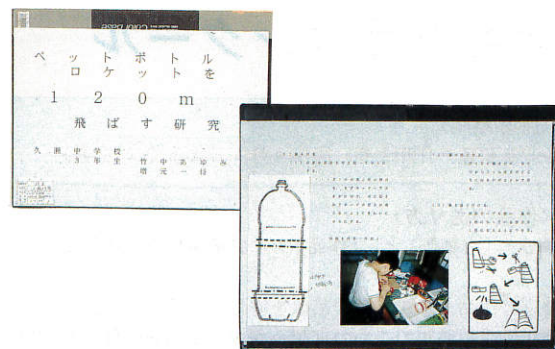
全国中学校理科 教育研究会 会長賞

「ペットボトルロケットを120m飛ばす研究」

岐阜県久瀬村立久瀬中学校

3年 竹中 あゆみ／増元 一将

近頃はやりもあって、ペットボトルロケットの研究はとても多くの応募がありました。その中でもこれは、200回にも及ぶ実験で科学的に研究した努力作です。指導の先生や村の研究家からのアドバイスをもとに実験方法を工夫し、根気強く調べた姿勢が高く評価されました。パソコンを使ったデータの処理も優れています。



中央出版(株) 特別賞

「THE・瓦」

京都府京都教育大学附属京都小学校

4年 水谷 勝一

町の中で見かけた鬼瓦に心をうばわれたことをきっかけに、屋根だけでなく、花だんや歩道、かざりなどに瓦が使われていることを発見していきます。文献だけでなく、瓦づくりの名人にインタビューをしたり、手紙で質問をしたりして、よく聞きとりをしています。

また、写真できれいに整理されて、瓦の写真集のような作品に仕上がっています。



全国小学校理科 研究協議会 会長賞

「遠くまで走れぼくのスーパーカー」

岐阜県瑞浪市立日吉小学校

3年 渡辺 賢

ゴム動力の車作りを通して、ゴムの力を様々な角度から研究した大作です。ゴムの本数、太さ、種類を変えて実験を行い、それぞれの結果を比較しながら考察しています。また、車が軽いとタイヤがすべるので車を重くするなど、研究を通して経験を積み、それが次の工夫へと発展しています。これらの点が高く評価されました。



中央出版(株) 特別賞

「連鶴の世界」

長野県高森町立高森中学校

3年 福澤 俊幸

1枚の折り紙から何羽もの鶴を連続して折る「連鶴」について、設計図、制作時間と難易度、また、完成作品をまとめ、さらに、花形の連鶴や立体的な連鶴の設計と制作に発展させています。

かなり時間をかけた労作です。数学的な要素をもっと前面に出すと、より良い作品になるでしょう。



社団法人日本数学教育学会 会長賞

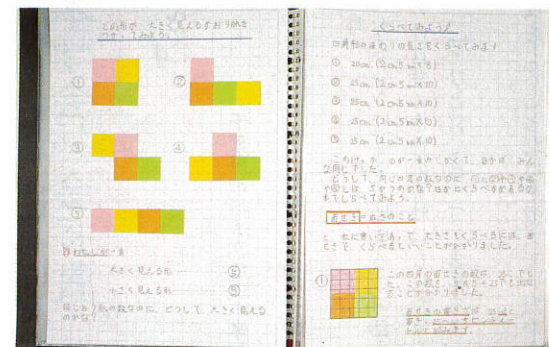
「大ききくらべ」

岐阜県柳津町立柳津小学校

3年 後藤 里与子

妹が積み木で遊んでいるのを見て、「どうして積み木の数は同じなのに、作った形によって、大きく見えたり、小さく見えたりするのかな？」と不思議に思ったことを、いろいろな角度から検討しています。

見取図や展開図、また表などを使って、研究の様子がたいへんわかりやすくまとめられています。



日本社会科教育学会 会長賞

「世界の中の日本～輸入品襲来～」

東京都杉並区立高井戸小学校

5年 太田 裕之

スーパーで、日本食にかかせないしょうゆやそばまでが輸入されていることを知り、日本の未来に不安を感じたことが、この研究のきっかけになりました。食べ物だけでなく、衣類や電機製品、家畜のえさなどにもふれ、貿易品や、貿易にかかわっている商社のはたす役割、世界との交流の歴史まで、しっかりと調べてあります。



財団法人美育文化協会 会長賞

「おかわり」

青森県十和田市立切田中学校

2年 畑山 綾子

食卓をかこむ家族のほほえましい表現をとらえ、卓上の食器のリズミカルな配置を工夫しながら、生活の中の楽しさや暖かさをみごとにとらえています。

版画ならではの表現を生かした作品にできあがっています。



全国小学校生活科教育 研究協議会 会長賞

「ぼくのむしのおうさま」

かぶだいくんとかぶたくん」

岐阜県岐阜市立加納小学校

1年 佐藤 雄大

最初はカブトムシが怖くて持つこともできなかったのに、育てていくうちに雄大くんとカブトムシのかぶだいくんが大親友になっていく様子がよく分かる作品です。大親友だからこそ、毎日毎日大切に世話をしたからこそその細かな観察や気づきがよく記録されており、楽しい研究レポートができました。

